物流ニッポン
おかげさまで40th
2008年（平成20年）
7|28（月）
発行/月曜日・木曜日　第3152号
購読料/半か年32,130円（月額5,355円、税込）
©物流ニッポン新聞社 2008
（昭和44年4月1日第三種郵便物認可）

# 福岡に低温センター

## 外食店舗向け食材集約

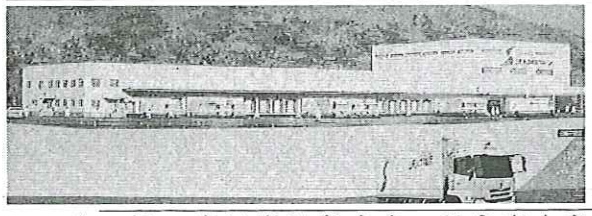
### シモハナ物流

【江藤和博】シモハナ物流（下花実社長、広島県坂町）は十月をメドに、福岡県久山町に五温度帯の低温物流センターを着工、来年四月の稼働を目指す。外食産業の店舗向け食材を集約して即日仕分け・発送するスルー型物流のほか、食品メーカー・卸のサードパーティー・ロジスティクス（3PL）を展開。福岡市内を主なターゲットに、九州全域への中継拠点としても活用する。

一万平方㍍の敷地に建設する建物の総延べ床面積は九千二百五十八平方㍍。二階建ての常温庫が延べ床面積三千平方㍍。そのほかは平屋建てで、冷蔵庫（二千五百四十七平方㍍）、冷凍庫（千九百二十一平方㍍）、超低温庫（六十六平方㍍）、氷温庫（六十三平方㍍）と五温度帯に対応する。荷さばき場は七百六十九平方㍍。

セ氏零度―マイナス一〇度の氷温庫は、外食チェーン向けの野菜や鮮魚の鮮度を保つもので、同社の拠点では初めて。また、冷凍の自動倉庫を新たに設け、可動式ドックシェルターを二十七基備える。配置車両数は未定。九州自動車道の福岡インターチェンジから三・五キロと交通アクセスが良く、付近に住宅地があることから、人材確保にも有利と判断。土地代を含め十七億円を掛けて建設に踏み切る。

完成後は九州支店（佐賀県鳥栖市）が入居。同支店の施設は残し、鳥栖営業所として営業を続ける。



新センターはシモハナ物流として二十四拠点目。岡山物流（下花社長、岡山市）、アンゼン（同）を含めたグループでは三十四拠点目。これにより、東海地区から九州までのネットワークを確立することになる。

九州には、このほか小倉営業所（北九州市）、大分営業所（大分市）があるが、核となる物流センターの完成で、熊本や鹿児島、長崎などにブランチ（枝）となる拠点を広げていく計画だ。

岡山物流が二〇〇六年に建設した高槻センター（大阪府高槻市）では、外食チェーンの物流を一括してコスト削減に貢献し、実績を上げている。新センターも主力荷主は回転ずしや居酒屋、焼き肉などのチェーンで、高槻センターのノウハウを生かし、新規荷主を開拓していく。

シモハナ物流の〇八年三月期決算は、売上高が百二十三億九千万円で、前の期（百三億六千万円）を二〇％近く上回った。今期は百四十億円を目指す。グループでは、決算月が違う三社の売上高を一つとし三月にならして計算し、初めて二百億円を突破した。

▲九州全域の中継拠点に活用（完成予想図）